



## 新たに高台や避難場所を設置しないのか

馬淵 紀明 議員

設置計画は、現在はない

市民協働部長



▲地域で作られた「水害手作りハザードマップ」

液状化現象は、地震発生からどのくらいの時間で起きるのか。

**市民協働部長** 地震発生直後から起きる可能性がある。

南海トラフ巨大地震以外の震源地となるような地震は想定しているのか。また、想定している場合は、その地震でも液状化現象は考えられるのか。

**市民協働部長** 南海トラフ巨大地震以外では、四日市、養老などの活断層

による地震が想定される。国・県の想定で、震度5強以上の強い揺れがあった場合には、液状化現象の起きる可能性がある。

地震直後に液状化現象が起こり、堤防が破壊、沈下し浸水被害の起こる可能性もある。高齢者がこのような状況で速やかに指定避難所まで行けるとは思えない。新たに高台や避難場所を設置していく計画はないのか。

**市民協働部長** 設置計画

は、現在はない。

県の補助事業で「みずから守るプログラム」というものがあるが、どのようなものか。

**市民協働部長** 水害に対する理解を深めるため、町内会や自主防災会といった地域コミュニティが主体となる取り組みを中心に、行政からの情報提供の向上も含めた愛知県建設部河川課の地域協働型事業だ。

この県事業は、市民の防災意識を高めるため、重要な取り組みだと思いが、市長の見解は。

**市長** 有効な訓練をしてもらう事業の一つだと思ふ。この事業に限らず、自主防災会、市民の皆さんに訓練を重ねてもらい、自助・共助・公助の取り組みを進めていくことが、みずからの命、地域を守るためには必要であると考え。



▲愛西市津波避難計画